

愛知県立碧南高等学校旧講堂(武道場)及び正門



開校前当初の絵葉書 (南東から)

愛知県立碧南高等学校は、碧南市中部の向陽町、名鉄三河線碧南中央駅の東500mに位置し、大正15年(1926)に開校した愛知県碧南国民学校を前身とする県内有数の伝統校です。

旧講堂(武道場)は昭和3年(1928)に建てられたもので、木造土壁造の平屋建て、屋根は寄棟造(付属屋は切妻造)の^{さんがわらぶ}棧瓦葺きで、校地の南西に立地しています。外観は全体を和風としながらも南正面の軒下などに洋風の装飾を施し、内部は書院・寺院建築

にごうてんじょうに多く見られる堂々たる格天井、その縁には美しい文様状の通気口を設置しています。以前は式典にも使用されていたことが建物の雰囲気からうかがうことができます。

また、正門は、旧講堂とほぼ同時期の昭和4年(1929)頃に碧南国民学校の正門として校地の南辺中央に建てられたもので、現状は脇門柱を取り除き、主門柱の位置を動かして開口部を広げることにより、車両も通行できる正門として使用しています。平成29年には国の登録有形文化財に登録されました。



正門 (南から)

九重味淋大蔵

九重味淋株式会社は、碧南市中西部の浜寺町、名鉄三河線碧南駅の西600mに位置し、石川八郎右衛門信敦が安永元年(1772)に創業しました。みりん製造としては約250年の歴史を刻む醸造元です。

みりんは、「大蔵」の中で、もち米を蒸して米こうじをつくり、さらにもろみにして熟成させ、絞った上澄み液を半年から1年間貯蔵熟成させてできあがります。室温を18～20℃程度に保つ温度管理が重要であり、この大蔵のように壁の厚い土蔵造が適しています。

国の登録有形文化財となっている大蔵は敷地の北辺中央に建つ、木造2階建て、切妻造棧瓦葺きの土蔵で、規模は桁行約26.5m、梁間12.45m、西南部に桁行8.8m、梁間8.5mほどの張出しが付いています。外壁は黒塗りの押縁下見板張りで、窓周りを白漆喰としています。宝永3年(1706)に建築され、天明7年(1787)に名古屋市緑区の酒蔵から現在地へ移築されたもので、九重味淋の象徴的建物として伝統的製法の継承を担っています。

〈参考〉文化財ナビ愛知(愛知県教育委員会)



大蔵 (西から)



九重味淋界限 (西から)



愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室
TEL: 052-954-6783
E-mail: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

